2025 1

F·wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ·ウェーブ」

特集：地域をつなげる港のマルシェ

12 月の第 3 日曜日、片瀬漁港の敷地にはテントやキッチンカーが並び、様々な食べ物・飲み物や福祉施設の製作品や近隣の海産物・農産物を販売していました。この日は快晴で、気温が低くとも親子連れを中心とした多くの人々が集まっていました。今号の F-wave では、片瀬漁港の朝市である「江の島フィッシャーマンズマルシェ」（以下、フィッシャーマンズマルシェ）について、実行委員会の栗原さんにお話をうかがいました。

朝市を始めた理由について、栗原さん曰く、「2020 年、コロナ禍で外出禁止令が出たりと、魚が売れなかった時期がありました。そこから、未利用魚等の販売をして、魚のおいしさっていうのを知ってもらいたいっていうのがまず第一のコンセプトです。それに付随しまして、藤沢の地産地消野菜なども知ってもらいたいということを目的にフィッシャーマンズマルシェが始まりました」とのことです。

取材をお受けいただいたのはフィッシャーマンズマルシェ開催中のテントの裏。目線を横に向ければお野菜の販売が見える場所でした。未利用魚の有効活用にとどまらず、地域の活性化にもつなげていく姿勢がうまく伝わっていることで、多様な出展者が集まる場となっていることを感じました。

（次ページに続く）

地域をつなげる港のマルシェ

フィッシャーマンズマルシェは基本的には第３土曜日・日曜日に開催されており、この日は強風で船を出さなかったものの、貝類などの販売が行われていました。また、前日の土曜日には、魚類の販売もありました。イベント自体はそれ以外にも多くの出店があり、市内農家による野菜やトマトジュース、クリスマスオーナメントづくりの体験、近隣の飲食店による焼き魚などの料理やオリジナル調味料、たこ焼きやクレープ、しらす丼や肉丼、コーヒーを販売するキッチンカーなど、海産物販売以外にもバラエティに富んだお店が出店していました。栗原さんによると、「藤沢で事業者登録している方々に出店いただいています。魚の販売があるとご高齢の方が増えるんですが、今日の会場を見るとわかる通り、幼稚園に通っているような子どもさんの世代まで幅広く来ていただいています」とのことでした。実際にこの日は親子連れの方が会場内にとても多く見られ、幼いころから近隣の港に馴染みを持つことができる機会を提供できているように感じました。

B 型作業所のテント

会場には、市内の B 型作業所のテントが２件出店していました。販売されていたのは、消臭チップやクッキー、マグネットなどの製作品。テントの位置も会場の中心に近く、会場を訪れた人が必ず目にする場所でした、作業所はかながわ水産業福祉連携推進事業を通して打診があり、比較的開業から日が浅い作業所が出店しているとのことです。栗原さんによると、「福祉施設さんは、自分たちの名前や活動内容を知ってほしいというのもあって出店してくださっています。人が一杯集まっているところへの出店機会はなかなかないので、場を設けていることに感謝しているという声をいただいています」とのことです。

未利用魚の販売

栗原さん曰く、「漁港の活性化や地域連携を大事にしているので、そういった部分につながる方にはどんどん参加していただきたいと考えています。かながわ水産業福祉連携推進事業などを通じてご連絡いただければスムーズですが、まずはマルシェに足を運んでほしい。雰囲気を見た上でどんなことが出来るか考えていただいても構わないと思っています」とのことです。今回実際に足を運んで、江の島を間近に望むロケーション、脇で働く漁港関係者の方々、多様なテントやキッチンカー、そしてお客さんとして来ている方々の笑い声など、活気に満ちたイベントから元気をもらえました。福祉施設に限らず、こうしたオープンな空間で市民活動団体が来場者の目に触れるような場の価値を改めて感じさせるイベントでした。

（取材：関野）

団体紹介

江の島フィッシャーマンズマルシェ実行委員会

【設立】 2020年12月

【代表理事】栗原義忠

【URL】

https://peraichi.com/landing_pages/view/yiimf/

※ページ内にお問い合わせフォームあり

「江の島フィッシャーマンズマルシェ」では、江の島片瀬漁港、定置網で水揚げされる新鮮なお魚や藤沢産のお野菜、パン、果物などを海の魅力を味わって頂き、未利用魚を減らす活動を中心に、2020年12月より、毎月第三土曜日・日曜日に開催しております。また、藤沢産の野菜や果物、お魚をメニューに入れたキッチンかーなど、漁業の魅力を楽しめるイベントになっています。

助成金募集元が重視すること

NPO TIPS

11 月の NPOTIPS では、助成金を探すサイト等をご紹介しました。今月号では申請先を選ぶ際の考え方について、どういった点が評価されやすい傾向があるかを、募集元の種類ごとにお伝えします。

自治体・行政：公共性

自治体や中央省庁が出す助成金は、「所管地域内の所管分野」に対して出しているものです。例えば藤沢市ミライカナエル活動助成事業であれば、藤沢市の「暮らしの豊かさの実現や、多様化する地域課題の解決に向けた、市民活動を行う団体」を支援することが目的です。また、源資が税金であるため、より公共性が高く、対象が広いものが評価される傾向があります。

一般的な助成財団等：団体・助成金の目的

助成財団等の場合は目的志向が強く、設立理念や助成金の設置目的を念頭において申請する必要があります。起業家などが設立者であっても、設立の想いなどがウェブサイト等に記載されています。自分たちの活動が助成対象分野であっても、助成財団等の目的に沿っていなければ選定されることが難しい点にはご留意ください。

企業：社会状況・社会的インパクト

企業や関連財団の場合には、経営理念や社会的責任から助成金の設置目的が示されることが多く見られます。例えば環境保護に関しても、リサイクル関連企業が本業の延長線上で行っていたり、環境負荷が懸念されうる事業を行っている企業などが助成金事業を行っています。企業の実質的所有者は株主ですので、株主が納得できるようなお金の使い方になるよう、経営理念や社会的責任をもとにしつつも、(財団等設立時の) 社会状況に沿っていたり、社会的インパクトの大きい活動に比較的高額な助成を行う傾向があります。

以上、あくまで傾向として記載しました。どういった助成金を申請するにせよ、一番重要なのは募集要項をよく読み、募集元が何に対して資金提供したいかを受け止めることです。対象分野だとしても募集元の目的と団体の申請内容がかみ合わなければ、採択されることは難しくなります。また、助成金頼みで事業を続けようとしても、過去に他から助成を受けた事業を同様の内容で申請すると新規性が無いと判断されがちです。その場合は、別途の資金調達の手段も考慮すべきかもしれません。

市民活動推進センター・市民活動プラザむつあいでは、各種の助成金申請につきましても、ご相談を承っております。お困りのことがありましたらぜひ当施設までご相談ください。

「社会教育」と「市民活動」の深い関係

なぜなにNPO
vol.186

2024年度より「藤沢市社会教育員」として再び活動を開始することになった。思えば、約20年ほど前に8年間社会教育委員として、藤沢市内のみならず、様々な社会教育の施策について学習の場を与えていただき、意欲的に動いていた。市民活動推進センターが2001年に開設されて間もなく、教育委員会から声を掛けていただいたことによるものだった。

藤沢市の市民活動は、市民の社会教育活動つまり、生涯学習活動の発展形も多く、密接な関係を持っている。その通り、市民活動はテーマ型の活動となっているが、特定非営利活動の種類の中で、他の市町や全国的にボリュームゾーンである福祉の分野と並んで、社会教育分野が多いことが当時の特徴だったことからも良くわかる数字が出ていた。ボランティア活動として活躍している市民の数も多かった。当時は、「NPO」の言葉はもとより、「市民活動」という言葉の理解はそれ程進んではなく、生涯学習の成果の発揮場所や行動場所として、考えていったり、説明したりで、馴染んでいったようだ。社会教育委員として、公民館をはじめとする、藤沢市内に点在する特徴ある歴史的な学びの拠点や史実を見学や調査を通じて学び、プランに移す作業に継続的に関わることができた。とても貴重な経験で、それをなくしては、現在の市民活動支援への知識はとても足りることはなかったように思う。藤沢市は、市民活動推進センターを開設したときと同じ時期に、「生涯学習大学」を開設し、市民の学びの拠点を整備し、数多くの藤沢市の事情をよく知る市民を輩出していった。生涯学習とは、社会教育も含め、学校教育や家庭教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、さまざまな場や機会において行われる学習を指し、藤沢市生涯学習大学は、中でも社会教育の一環として、学習活動の成果により生活の向上に取り組むことや、受講生同士の交流を通じてつながることで、「仲間づくり」から「地域づくり」、「まちづくり」へと進めることを目的としている。改めて、2024年の生涯学習プランの成果報告書を見ると、市内各地で意欲的に活動している市民の姿が目に留まり、コロナ禍を超えた市民力は、少しずつエンジンがかかってきたようだ。

社会教育と市民活動をより密接に関係づけることで、市民へのアプローチがしやすくなることは実証済みなので、改めて社会教育委員としての動きも加味し、市民活動の推進に向けた方策を企画し推し進めてまいります。今年は巳年です。「巻き込む力」を高め、引き続き活動を続けている皆さんと共に歩んでいくことをお約束します。よろしくお願いいたします。(て)

講座・イベントの ごあんない

イベント	日時
■パートナーシップミーティング in 藤沢	2025年1月29日（水）14:00～17:00
■IT サポート講座「らくらくホームページ作成講座」	2025年2月3日・10日（月）13:30～16:00
■マネジメント講座「団体の「組む力」協働入門講座」	2025年2月9日（日）13:30～15:30
■会議室利用料金の改定	2025年4月1日（火）～

NEW! 支援施設からのお知らせ

■企業・ＮＰＯ・大学・市民のための　パートナーシップミーティング in 藤沢　ーワカモノと考える湘南の SDGs ー

SDGs を意識したワカモノの活動「障害の未来を考える文化祭 2024」や、聴覚障害の当事者が行う SDGs を意識した「情報アクセシビリティ社会モデル事業」の実証実験として藤沢駅前北口商店街の企業と連携して行った活動などについて発表を聞き、SDGs 達成のための新たな連携を模索しませんか。

日時：2025 年 1 月 29 日（水）14:00 ～ 17:00（13:30 受付開始）
対象：市民活動団体の方、企業・学校関係者、その他
会場：藤沢市役所 8 階会議室
定員：30 名（先着順・要申込み）　参加費：無料
主催：神奈川県・藤沢市市民活動推進センター（指定管理者：藤沢市民活動推進機構）

■IT サポート講座「らくらくホームページ作成講座」

インターネット上で団体の活動を紹介しませんか？無料ウェブサイト作成ツールを活用しウェブサイトの仕組みを学ぶことから、ホームページ作成の実践まで幅広く学べます。

日時：2025 年 2 月 3 日・10 日（月）13:30 ～ 16:00
会場：市民活動推進センター会議室
講師：市民活動支援施設 IT サポーター
内容：1 回目：ウェブサイトの仕組みを知る
　　2 回目：ウェブサイトを作成してみる
参加費：2000 円　定員：10 名
対象：地域で活動している団体の方
　　※「1 団体 2 名での参加」をお願いしています。
問合：藤沢市市民活動推進センター

■マネジメント講座「団体の「組む力」協働入門講座」

SDGs など様々な分野で注目される「協働」。団体等の活動を効果的にするだけでなく、広報・集客力の強化、より注目される活動の展開にも活かせます。
本講座は、他団体や行政・企業などとの協働に興味・関心をお持ちの方のための入門講座となります。

日時：2025 年 2 月 9 日（日）13:30 ～ 15:30
会場：市民活動推進センター会議室
講師：手塚 明美 氏（認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構　理事長）
内容：協働とは／協働の方法の例／協働に向けた NPO の姿勢　ほか
参加費：1000 円　定員：30 名
対象：公益的な市民活動を行っている団体や個人
問合：藤沢市市民活動推進センター

■会議室利用料金の改定について

平素より藤沢市市民活動支援施設をご利用いただき、誠にありがとうございます。
藤沢市では公共料金の見直しが進められており、藤沢市市民活動推進センターの会議室も対象となりました。
2025 年 4 月 1 日より、下記の通り利用料金が変更となります。

・会議室 A：1 時間 200 円
・会議室 B：1 時間 180 円

ご利用される皆様におかれましては、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

発行：藤沢市市民活動支援施設
本館：市民活動推進センター
開館時間 9:00 ～ 22:00　火曜休館
　　※日・祝は9:00 ～ 20:00
〒251-0052
神奈川県藤沢市藤沢 1031 アーバンセンター藤沢 2F
TEL：0466-54-4510 FAX：0466-54-4516
E メール： f-npoc@shonanfujisawa.com

分館： 市民活動プラザむつあい
開館時間 9:00 ～ 17:00　月曜休館
〒252-0813
神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2 階
TEL＆FAX：0466-81-0222
E メール： f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設　指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！